

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月28日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677600092
法人名	社会福祉法人幸伸会
事業所名	グループホーム青山荘
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町城元3724-1 (電話) 0994-22-3389
自己評価作成日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年2月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・空気の澄んだ自然の中で、開設者が植樹した多くの桜の木々に囲まれていて満開がとても楽しみなホームです。小さい畑ですが野菜を栽培し、季節の移り変わりを肌で感じていただけるようにしています。

・地域住民とは多少離れているが、母体である特別養護老人ホームが同敷地内にあることで利用者様は季節の行事や馴染みの方々との関係を保ちながら生活ができる。職員は他職種との連携や相談、協力をもらい安心して仕事ができる。

・利用者様の健康管理、リハビリは必要に応じ訪問看護師や理学療法士への相談協力をもらえる体制を整え、個々に合わせた援助できるよう努めている。

・一人一人が孤立しないように、利用者同士、ご家族、訪問看護ステーション、主治医、隣接する特別養護老人ホーム看護師や職員、シルバー人材センター、外部レク講師、運営推進委員など多くの人で支え合えるよう開放的な環境を整えている。

・体験学習の受け入れも行い、地域の小学校中学校の生徒にグループホームの役割や認知症への理解を啓発している。

・利用者様に安心して生活して頂けるよう、共有のスペースは明るく、畳台やソファで思い思いに活動や寛げる集いの場を確保している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<理念の共有>  
利用者の状態や職員の理念への思い等事業所の状況等を踏まえた上で、新たな理念を職員全員で考え作り上げた。また、理念と職員の心得を毎日読み上げることで理念の意識付けを図るとともに、日々のケアが理念に沿って実践できているかを考えることを繰り返している事業所である。

<災害対策>  
消防署立ち会いの下での防災訓練に加え、毎月、防災マニュアルが実践につながるか、出火場所を変えて避難誘導を実施したり、緊急時の職員の対応がスムーズに行えるかを繰り返し確認している。また、職員全員がAED講習や普通救命講習を受けるなど万が一に備えるとともに備蓄や備品についても十分な量が確保されている。

<身体拘束廃止委員会>  
身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の職員会議で拘束しないケアが実践されているかを確認しており、話し合われた内容を再度、法人全体会議でも確認している。また、言葉による拘束をしていないかを職員間で意識し声を掛け合うほか、丁寧な方言や顔を見ながらゆっくり話しかけるなど、抑圧感のない接し方に努め日々支援している。

<人格の尊重>  
グループホーム協議会の資料やテレビ番組を参考に人格の尊重やプライバシー保護についての研修を行い、来訪者にも個人情報の保護を徹底させている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念、目標をリビングに掲示。朝礼時にリーダーが理念や心構えを読み上げることで共有し、職員が統一した意識でケアの実践に取り組んでいる。	利用者の身体状況や事業所の支援状況を勘案し、職員全員による話し合いの下、現状に即した理念の作り変えを行った。また、日々理念や職員の心得を読み上げることで理解につなげ意識付けを図ることで毎日のケアを本人本位に行えるよう取り組み実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への買い物や保育園や学校関係との交流、法人全体の夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会、家族会など隣接の特別養護老人ホームやショートステイ利用者との交流を通して地域の人々との繋がりを保てるようにしている。	障がい者施設主催のイベントや町主催の農業祭に参加して生産者と会話を交わしたり花や野菜を購入するなどして交流を図っている。また社会福祉協議会が主催するワークキャンプには、小中学生らが参加しており、中学生による職場体験などの受け入れも行うなど、保育園や学校と積極的に交流を図っている。事業所主催の夏祭りや運動会等の行事にも家族や地域住民の多数の参加が得られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	学校からの体験学習、ワークキャンプを毎年受け入れて、ホームの役割りや認知症を分かり易く説明、指導をしている。ホーム、個人の買い物は地域で生産された物を扱う商店に買いに行くようにして関わりを持ってもらい認知症への理解や啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告だけではなく利用者の介護度の変化、生活の状況報告、包括、民生委員、家族の立場からの意見、アドバイス、要望等情報交換を日々の運営に役立て改善に取り組んでいる。	利用者や家族代表、民生委員や行政、地域包括支援センターの職員らが参加し、事業所の活動内容の報告や民生委員からの情報提供、介護認定結果や認知症の自立度の確認等を行った。玄関ポーチに屋根がないため必要ではないかという意見が出され、速やかに屋根とスロープを増設するなど環境改善に迅速に対応した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の各担当者とは連絡を取り合い情報交換を行っている。錦江町女性部との交流も初めて行うことができた。包括支援センターからは運営推進会議への参加をもらい町からの情報も定期的にいただき運営に役立っている。	行政職員や地域包括支援センターの職員とは運営推進会議で顔を合わせており、事業所の取り組みや実情を伝えるとともに研修会の案内を受けたり、利用状況の確認を受けるなど相互に意見交換を行っている。また、介護認定申請の機会や対応に苦慮した時等相談事がある際には、随時行政に出向き意見を求めるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の会議をホーム内事故、ヒヤリ、ケアの困難事例を取り上げ開催し、不適切なケアの見直しを行うことで身体拘束ゼロのケア実践へ繋げるように努めている。法人事業所全体で開催するセクション会議に管理者が出席し会議の内容を報告している。この会議では、相談や協力体制の要請も行うようにしている。困難事例があれば法人全体で取り組む体制がある。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の職員会議において適切なケアが行われているか確認したり、事例を基に意見交換を行っている。また、話し合った内容を法人の全体会議であるセクション会議にて再度報告、確認している。特に言葉による拘束については、繰り返し話し合いが行われているところであり、方言を上手に使って、ゆっくり、わかりやすく話をしたり、顔を見ながら相槌を確認するなど、日頃から気を配り対応している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会への参加、毎月の身体拘束廃止委員会や職員会議にて拘束、虐待による弊害を理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	高齢者虐待同様職員会議で学ぶ機会があり、利用者の尊厳を意識し、チームで仕事に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の本人との面会で対象者であるかの確認。ホームへの見学を勧め、実際に雰囲気を見て頂くことで入所に対する不安の軽減に努める。契約時には重要事項に沿って詳しい説明と随時で質問を受けながらご家族の十分な理解の確認を行ないながら契約するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の暮らしの様子は毎月のホーム便りを送付。利用者のつぶやきに耳を傾け面会時には必要に応じ家族にお知らせしている。面会以外電話や家族会、交流行事、運営推進会議で意見、要望、相談を随時受けるようにして内容に応じ早期改善策の検討を職員みんなで行うよう柔軟に対応している。家族以外の方でも自由に意見がいただけるよう玄関に意見箱の設置をしている。	利用者の意見については、日々の言動や接する中で感じ取ったことを、また家族からの意見については、面会時や家族会等来訪時に話を聞くことで確認している。面会に来られる家族は多く、管理者が話を聞き、事業所の取り組み等運営に反映させることができている。また、事業所からは事業所便りや担当者便りを家族に送付することで実情を伝え、意見をもらうなどしている。玄関には意見箱を置いて率直な意見をもらえるよう努め、住環境整備についての意見用紙であるキャプションシートも置くなど、意見や要望を聞き取り、汲み取る努力をされている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の朝礼では、法人全体の予定やホームの予定の周知、随時必要に応じミーティングでの意見も大切に連絡ノートの活用で情報の共有を図り、職員会議で協議した意見等は統一したケアにつなげている。管理者は個人面談にて意見を求めている。	日頃から職員と意見を交わす機会は多く、職員会議や人事考課を兼ねた個別面談時にも詳しく聞き取ることができている。勤務体制については、職員から休みの希望をとり、休みが重なった時には両方で話し合っ決めてするなど可能な限り対応できるよう調整している。洗濯物干し場が必要との意見が出された際は、速やかに洗濯物干し場と倉庫を増設するなど職員の提案を大切に、業務改善につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は個々の仕事に関する悩みや目標に対する取り組み状況など、必要に応じて随時アドバイスや職場環境を整えるよう勤めている。資格取得も応援し、試験にチャレンジできるよう配慮している。</p> <p>今年度事業拡大したが、法人全体で離職者もあり人材不足の状況。業務の見直しで少人数でも効率の良い仕事が行えるようにしたが、求人募集を出し早急に配置の希望をお願いしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修については希望を申し出て受講する機会が平等にあるが、経験年数で研修内容を検討している。外部研修、施設内研修勉強会、感染症対策委員会での取り組みでは、吐物処理の仕方を全職員が実習、身体拘束廃止委員会では報告書作成の勉強会、緊急時の対応ができるよう今年も救命講習（3時間）を消防署に行き受講している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>錦江町、包括、医療機関が開催する勉強会や交流会参加で他事業所との情報や意見交換、共に学ぶ機会があるが今年度においては参加できていない。</p> <p>同町のグループホームとの交流を含め今後実現できるようにしたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始以前に、自宅へも訪問させてもらい関係機関からの情報を基に、どのような人なのか背景に認知症の症状が生活のどのような場面で不安や困りごとに繋がるのか面会を行い確認するようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>希望でのホーム見学を勧め、ホームの経営方針を踏まえ、ご家族の相談やニーズを聞き要望に対応できるかの検討をした上で入居に関する説明を行うようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネージャーへグループホーム対象者（認知症の診断）であるのか、緊急性はどうかなどの情報収集をして本人家族が安心して受けられるサービスを助言する。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>活動を共にし、意識してその時々本人の言葉「つぶやき」を大切に聴き、表情や行動で想いを察することができるようキーワードを入れ書き込み、職員・主治医・訪問看護師の情報の共有に努め利用者を理解している。敬う中、時には友人や子供のように接したりしながら共に生活している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の願いや困りごとは何かを確認し合い、できる限り家族の役割として繋がりを大切に協力できることはお願いして共に支えていけるように働きかけ関わりを保って頂くようにして面会のきっかけ作りに努めている。毎月ホーム便りで生活の様子や行事の予定などお知らせしている。今年度は11月に家族の手伝いをいただき食事会を行った。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の延長として、可能な限り家族とのかかりつけの病院受診や自宅への帰省援助をもらう。また、地域のお店への買い物、特別養護老人ホーム青山荘の利用者、ショートステイ利用者、他に地域の方々との夏祭りや運動会等の行事を通し足を運んで下さる状況です。	本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所をアセスメントシートに落とし込み、日常的に馴染みの商店やお墓参り等に家族の協力をもらいながら職員とともに出かけ交流を図っている。法人主催の夏祭りには、地域住民や友人知人らが多数訪れるため、楽しい時間を過ごすことができ、家族と接するよい機会となっている。また、電話や手紙の取り次ぎ、訪問支援など利用者の人間関係が途切れないようこまめに対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が弾む、落ち着ける相性の良い関係、安心して寄り添い集うソファ、協働できる畳台、おいしく食べれる食卓の配置など利用者同士が孤立しないで気遣いのできる環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中止後も本人への面会や家族との相談支援にも対応、気兼ねなくホームへの訪問や運営へのご協力も頂けている状況がある。葬儀への出席もさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員同士、訪問看護師で収集した気づきや情報は申し送りや記録で共有し、できる限り希望や意向に沿えるように努力しているが、困難な場合はご家族や主治医、訪問看護ステーション、法人全体を含め他職種で相談検討して対応している。	日々の生活の中で見せる言動等により思いを把握し、家族からも面会時に話を聞くようにして思いを汲み取るようにしている。把握した内容はケアプラン実行表内の特記事項欄や連絡ノートに記載することで職員が常時内容を確認することができ、申し送りや職員会議でも本人本位の暮らしが送れているかを話し合い、毎日の生活に反映させられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族以外の親戚やお友達の面会や主治医、民生委員、訪問調査員、商店街などからの情報も頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個々の能力により負担なくできることや好んで参加できることを見つけお誘いしている。何か1つでも楽しんでもらったり、役割を担って頂けるよう努めている。ただし、表情や体調を考慮し休息も促すようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との電話や面会での状況報告や相談、受診時の主治医との相談、訪問看護師からのアドバイスを担当者は評価、職員間でのミーティングや職員会議を利用し検討事項など話し合い介護計画を作成している。	利用者や家族、訪問看護ステーションや主治医の意見も含め、3ヵ月毎に実施するモニタリング等で状態を確認するとともに入退院や区分変更等の際に状態が変わるようであれば、その都度モニタリングとアセスメントを行い、介護計画の見直しを行うなど、現状に即した介護計画の作成を行っている。また、介護計画を見直した際には、必ず担当者会議を行い、計画の説明と同意の下で、ケアの実践を図っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム独自の記録書式で1週間分が見れるようにして、生活の様子、健康状態など詳しく記入するようにして職員が把握しやすいようにしている。訪問看護ステーションの看護師も活用、受診時に医師への報告でも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している特別養護老人ホームや居宅支援事業所などの他職種との連携協力が得られている為、入院での利用中止時は、退院時の状況で法人事業所で柔軟に受け入れるようにして、安心して治療を受けて頂くよう説明している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院関係、訪問看護ステーション、運営推進委員（町の担当者、民生委員、家族代表者）や外部講師（レク、手芸、理学療法士）消防署、学校関係者などあらゆる立場の人との交流を図るようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人ご家族の意向を尊重しており、職員援助以外に必要な応じ適切な医療が受けられるよう情報提供書の準備でご家族の受診同行の協力を得て、主治医との連携や相談もできている。	入居前のかかりつけ医の情報をアセスメントシートに記録し、入居後もこれまでのかかりつけ医の受診を基本に、家族と職員が協力して支援している。また、受診時は日々のバイタルを記録した情報提供書を持参し報告するとともに、受診時の内容については、連絡ノートに記録して、申し送り時に伝達、情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>1週間に1回の訪問時に個々の情報・状態について気になる点は連絡を密に行い受診の対応をすぐにできるようにしている。また、急を要する場合には併設の特別養護老人ホームの看護師に対応していただくようにしている。</p>	/		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族と情報を共有し、治療計画など把握できるようにしている。病院とは入院時に担当看護師やソーシャルワーカーへ情報提供を行い、入院後こまめに連絡を取りあうようにしている。治療の経過により円滑な早期退院ができるよう努めている。</p>	/		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用開始時にホームの看取り介護の指針の説明で、希望を伺い同意は得ているが、まだ看取りの事例は無い。終末期については今までも話し合いなどあったが、まだグループホームでの取り組み方やスタッフの考え方など不安な要素は多くある。希望に添えるような体制を整えたいと考える。</p>	<p>入居時に「看取り介護の指針」「看取りに関する意思の確認および同意書」を説明し、入居後も本人家族の思いの変化を繰り返し確認している。重度化や看取りに関する研修については、法人内での内部研修として実施しており、特別養護老人ホームの看護師や訪問看護ステーションとの連携を図っているところである。終末期をどこで過ごすかについては、事業所の体制や力量にもよるが、最終的には家族の判断により対応することとしている。</p>	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>頻度は少なく、実践力については全ての職員で同じようにはいかないも、毎年地域消防署にて普通救命講習を受講している。夜勤帯は一人の対応で不安な為、訪問看護ステーションとの連携及び状態によっては併設の特養への連絡で応援が駆けつける体制がある。</p>	/		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月夜間火災を想定した自主防災訓練（通報訓練）を通して、意識の向上に努めている。消防署立会いでの避難・消火訓練を2月実施予定。自動通報装置、スプリンクラーの設備もある。災害時においても、近隣住宅は無いが、同敷地内特養の応援体制が得られることで安心できる。非常時に備え保存食料や水、関連備品等が準備してある。隣接の特別養護老人ホームからの支援も可能である。</p>	<p>消防署の立ち会いの下による防災訓練のほか、マニュアルが実践できているか確認を兼ね、毎月自主訓練を行っている。自主訓練では、出火場所を変えての避難誘導など臨機応変に緊急時の対応ができているかを確認している。また、居室のネームプレートは、裏返すことで避難済みの確認ができるようになっている。AEDを設置していることから毎年AED講習を受講するほか、職員全員が普通救命講習を受講するなど、万に備えた体制を整えている。備蓄については、飲料水や乾物、インスタント食品を、備蓄については、懐中電灯やヘルメット等を備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりおひとりを尊重した声かけや対応に努め、プライバシーやプライドを傷つけないよう配慮している。毎月の身体拘束廃止委員会等で確保されているかの確認をしている。援助の場面によっては、適宜伝わり易い方言も使いながら、穏やかに暮らせる環境を随時話し合い整えるように心がけている。	人格の尊重やプライバシーへの配慮については、グループホーム協議会での資料を参考に話し合ったり、テレビ放映された認知症関連の番組を参考にしながら職員間で意見を交わしている。日頃よりプライバシーに配慮した声かけや言葉かけに注意しており、方言についても人格を尊重した言葉を選ぶよう気を配り対応している。ポータブルトイレは部屋を開けた時に目に付かないよう日中はカバーで覆うなど工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分での希望をなかなか表現できない方もいらっしゃるので、傾聴に努め難しいが表情も含め思いや気持ちを察するようにしている。どうしたいのか決められるような働きかけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、その方の希望に添える努力はしているも、利用者全体を考慮した時間や職員側の都合で生活をして頂いているように思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご自分で衣類を選び更衣されている方も多。おしゃれについては、その方らしい好みの物を身につけている。普段着と外出時の服は変え、職員もチェックして差し上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族の方との協力で定期受診時の外食や自宅に帰省しての食事、外泊での家族団欒での食事ができている方もいる。家族交流会での調理、クリスマスでのケーキ作り、誕生会でのおやつ作りでは、作る楽しさで笑顔が見られた。取り組めることを一緒に共有し、食に対する意欲の低下などがないように働きかけるようにしている。	昼食と夕食は特別養護老人ホームからの提供としているが、朝食は事業所で作っており、利用者と職員が調理やテーブル拭き、配膳下膳等一連の工程を一緒に行っている。また、家族と外食に出かけたり、外泊して家族と一緒に食事をするなど、楽しい時間を家族とともに共有し合うことで、安心感と満足感を得ることができている。また、ホットプレートを使ったおやつ作りや誕生会には利用者と一緒にケーキを作るなど食べることへの楽しみごとを大切に考え支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量はケアプラン実行表に記載することで時間の経過でその人に合った時間での支援が行えている。個々の状態に合わせた食事形態、糖尿病食など摂れるようになり、バランスの良い食事が提供できている。家族持参の好みの差し入れも受け安全に食べていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のその方に応じた口腔ケア支援。夜間は義歯洗浄剤を使用し除菌を実施。残菌のある方は磨き残しがないか仕上げの援助を行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の食事水分の摂取状況から、介護度の高い方もトイレで排泄ができる援助に努めている。排泄動作がし易い布パンツや服選びに気を配り、個々の能力に応じ、おむつに頼らないよう活動前後に声かけや誘導して皮膚の保清にも努めている。	ポータブルトイレの使用については、基本的に夜間のみ使用とし、日中は共用トイレでの排泄としている。排泄チェック表には、水分摂取量も記載することで、状態把握し、個別の排泄介助ができるよう心掛け支援している。これら排泄に関する支援方法を介護計画に組み込むことで職員全員が個々の状態を理解し適切な対応につなげることができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤のみに頼らない排便習慣ができるよう、おやつや食材にさつま芋、乳製品、などの提供や体操や水分摂取で自然排便を促せるよう努めている。緩下剤使用では排便の状況で医師の指示のもと量を調整し不快感がないよう援助している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お一人おひとりの気分に沿って、無理せず「気持ち良かった」と思ってもらえるよう、その方の時間・体調など考慮して、できることはして頂き支援が必要なところは介助させて頂いている。	隔日の入浴としているが、利用者の希望があればいつでも入浴することが可能である。また、シャワー浴や足浴も可能であり、体調不良等により入浴が難しい場合には陰部清拭だけでも行えるよう、常時清拭用タオルを準備している。入浴拒否がある場合は、声のかけ方やタイミング、職員を変えるなど工夫することで本人の意思で入浴につながるよう支援している	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の取り入れや、個々の生活のリズムに合わせ、ベッドやソファでゆっくりしてもらう時間も設けている。夜間眠れない時は安心して頂けるように、一緒に寄り添い話を聞いて差し上げたり、好むテレビ番組を見てもらうなどの対応をしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方服用の経過で生活に変化や支障をきたす場合は、職員間、訪看との情報の共有を図り相談し、医師へ報告をするようにして薬の相談をしている。変更時は必ず職員間での申し送りをして確認している。薬については薬剤師に情報を頂くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に沿って外気浴や散歩、新聞の提供、日記などお一人おひとりの気分転換が図れるように努めているが、役割としては、なかなか多く支援できていない。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日直ぐに戸外へという希望は難しいが希望に添えるよう努力はしている。家族の方へ本人の思いや希望はお伝えし、協力をが得られるように努めている。	初詣や花見、近隣へのドライブ等、屋内ばかりではストレスにつながるため、四季を肌で感じられる外出先を選定して出かけるようにしている。障がい者施設主催のイベントや町主催の農業祭にも出かけ地域住民と積極的に交流を図っている。歩行が難しい利用者には車椅子や車椅子対応のリフト車を利用して出かけるなど戸外で気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持している方は、買い物でお金の支払いをして頂いて、金銭管理も本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望では電話をつなぎ会話して頂く、遠方のご家族からも電話や贈り物が届きます。電話や手紙でのお礼。はがき（暑中お見舞い、年賀状など）定期的に下さる家族もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には季節の花や野菜、玄関にはホームの活動紹介や観葉植物、共有スペースには季節に応じた飾りや花、手芸クラブでの作品、行事予定のお知らせの掲示などを行っている。加湿器や空調設備で快適に過ごせるようにしている。不快な臭いなど無いよう換気も心がけて行っています。ソファは体操やテレビを見ての談話が弾む場所でもある	玄関には事業所の活動内容の紹介や観葉植物が置かれ、スペースも広いので、くつろぎ履きもスムーズに行える。フロアには季節毎の作品や月2回行っている手芸クラブで作った作品等が飾られるなど作業時の楽しい雰囲気が感じられる。また、加湿器を3台設置したり、こまめな換気、ドアノブや椅子の消毒清掃など、感染症対策にも気を配り対応している。トイレや浴室は動作や介助しやすいよう広いスペースを確保しており、浴室と脱衣場との温度差が少ないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではお一人おひとりの性格や認知症による行動などもある為、気の合う同士で過ごせるようなテーブルの配置や居場所作りに配慮しているが、なかなか共有空間では独りになれる場所作りは難しく、家族の面会時などある場合はできるだけ家族だけで過ごせるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや時計の設置、本人が過ごしやすいよう、随時本人や家族の要望に沿って居室内のベッドやタンスの配置や使い慣れたものなど家族の協力を得て環境作りに心がけている。家族との思い出の写真や居室にテレビの持ち込みで好きな番組を見ている方もいる。	介護用ベッド、エアコン、洗面台、タンスが備えられ、テレビやラジカセを持ち込んだり、写真等を利用者や家族、職員により飾り付けしている。居室の掃除は毎朝職員が行っているが、利用者自身でも掃除をしてもらうことで清潔に保たれている。また、感染症予防に居室入口に除菌剤を準備して、随時使えるようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>目に障害のある方もいて、場所が分かるように個室の名前や便所の表示は目線で大きめの表示がある。電気スイッチが分かるような工夫や個々の残存機能を活用し立位が取れる方には、ベッドにはスイングアームバーを設置して安全に立位保持ができるようにしたり、転落の予測される方についてはベッドの高さを低い高さに調整するなどすることで転落時の衝撃緩和を図れるよう安全面に配慮した環境整備に努めている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない